

『肺がんが早期に発見されたら』

川崎医科大学附属病院

呼吸器外科 部長 中田昌男

肺がんはわが国のがん死亡の1位を占めるこわい病気です。現在1年間に約7万人あまりの人が肺がんと診断されていますが、2020年には約14万人に増えるだろうと予測されています。このように増える一方の肺がんですが、早期に発見することができれば決して恐ろしいものではありません。

肺がんが早期に発見されたら？

1. 治る可能性は十分高く、治癒が期待できます

がんが3cm以下の大きさを転移のない場合、進行度はIA期と診断されます。IA期の肺がんは、手術によって5年生存率は83%程度が見込まれます。なかでも2cm以下の早期がんは治癒する可能性はさらに期待できます。

2. 身体にやさしい治療を行うことができます

早期肺がんの治療の原則は手術です。がんのできた肺葉を切除することになりますが、現在は内視鏡を使った胸腔鏡手術で切除が可能です。4～6cmの傷で手術ができますから、痛みが軽く術後1週間程度で退院できます。術後の肺機能も良好なため合併症も少ないと言われています。手術が難しい御高齢の方などには、定位放射線照射（ピンポイント照射）も威力を発揮します。

では、早期に発見するためには？

1. 胸部のレントゲンだけでは見えないがんもある

胸部レントゲン検査を定期的に行うことは大切ですが、小さながんや心臓の裏にできたがんなどはあっても写らない・見えないことがあることも知っておく必要があります。

2. 最新機器を使ったがん検診を

ヘリカルCTを使った肺がん検診では、今まで見つからなかったきわめて小さい肺がんが多数見つかることがわかってきました。さらに、PET-CTでは判断の難しい小さな影を、悪性かどうか判定するのに有用です。

でも、やっぱり肺がんにはなりたくない

肺がんを予防する良い方法はありません。しかし、たばこを吸わないことで肺がんが減ることはわかっています。吸っている人は禁煙にチャレンジする、あるいは、みんながたばこの少ない社会を作っていくことが大切でしょう。

最後に

肺がんが早期に発見されたら、身体にやさしい治療で治すことは可能です。そのためには、たばこを吸わない人も決して油断せず、肺がんの検診を定期的に行うことが最も大切です。